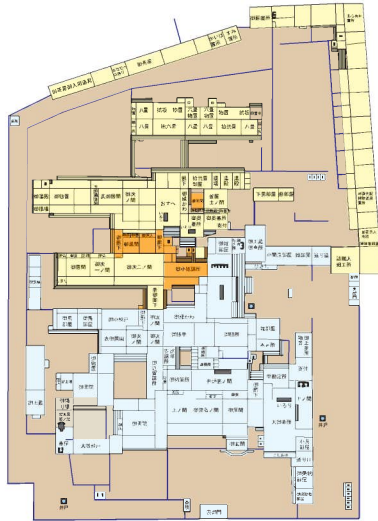


調査の展望

浜松城は、江戸時代以降の絵図などの古記録が残されています。今回の発掘調査では、古記録に符合すると思われる遺構や、古記録には表現されていない遺構が確認できました。今年度の調査成果をもとに二の丸御殿のより詳細な構造などを把握するための調査を行う必要があります。発掘調査によって得られた成果とともに、浜松城に関する古記録の調査研究を行い、浜松城の歴史や構造を総合的に検討していく必要があります。



青山家御家中配列図（17世紀後半・二の丸付近拡大）



二の丸御殿の構造
(17世紀後半の浜松城二の丸図を基に作成)



二の丸御殿付近で確認された礎石

浜松市文化財課 電話053-457-2466

はままつじょうはくつうしん 浜松城発掘通信 №10

浜松市文化財課 2020年 3月 19日

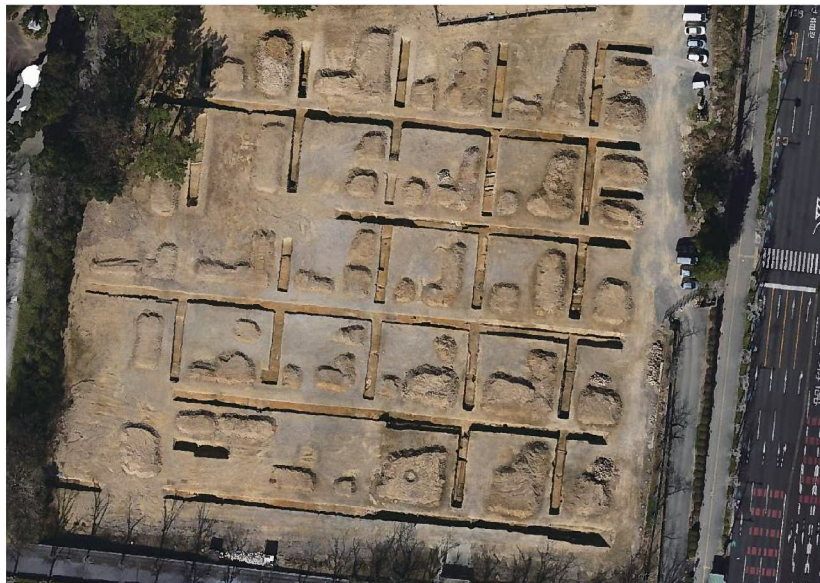
浜松城の本丸から二の丸にかけての構造が徐々に明らかになってきました。

2020年3月19日をもって、令和元年度の発掘調査が終了しました。調査を進めていく中で、堀跡や瓦だまりなどの遺構が新たに確認されました。また、1m以上の段差や地形の落ち込みなど、浜松城本丸・二の丸とその周辺の構造を示す痕跡が残存していることがわかりました。



発掘調査の様子

令和元年度の調査成果を紹介します。



浜松城の痕跡がどこに、どれくらいの深さでどれくらいの量が埋没しているのかを把握するために、旧元城小学校跡地全域を対象として幅2mの調査溝を20m間隔の格子状に設定し、調査を行いました。



瓦だまりを確認
建物に葺かれていたと考えられる鬼瓦や紋様の入った瓦などがまとめて出土しました。



石垣を確認
本丸東側に構築された石垣と掘跡を確認し、本丸の東端の位置が明らかになりました。



礎石を確認
二の丸御殿推定地付近から、礎石や礎石の抜き取り穴と捉えられる痕跡を確認しました。



近世に埋められた溝



近世の整地土下で確認した柱穴



近代のレンガ造の建物基礎



近代に造られた石積み

近世浜松城の整備よりも前につくられ、近世に埋め立てられた建物の柱穴や溝を確認しました。また、廃城後につくられたレンガ造の建物の基礎や石積み、配管などを確認しました。調査対象地には、中世から現在に至るまでの歴史が埋もれていることが明らかになりました。



出土瓦



出土陶磁器

今回の発掘調査では、瓦だまりなどから歴代城主が使用していた家紋瓦や鯨瓦、鬼瓦などが出土しました。また、江戸時代、藩主が在城のときに政務を行い日常生活も営まれた二の丸御殿付近では、当時高級品であった茶道具や播鉢などの日用雑器も出土しており、出土品から二の丸御殿での様子がうかがえます。